

平成30年度 長野県須坂高等学校 学校評価表 目標

		成果と課題	評価	改善策・向上策
学校目標	1 基本的な生活習慣を確立し、豊かな知識・表現力、創造的な思考力・課題解決能力、主体性を身につけた生徒の育成を目指す。	授業の方法の工夫や探究の導入など生徒の育成に努めている	A	方針を軌道に乗せるための具体的な実践工夫が必要となる
	2 保護者、地域の方々の期待に応えうる、健康でたくましい有為な若者の育成を目指す。	運動部の全国大会出場や、ボランティア活動、学術研究、全国規模のコンクールの入賞など優れた人材が育ちつつある	A	さらに多くの生徒に浸透すべく活動、研究、工夫を強化する必要がある
	3 学年、学級、教科担任、部・委員会顧問、各係等が相互に連絡・連携をとり、より充実した指導を目指す。	生徒の健康状況・家庭状況など必要に応じて情報が共有されている。また情報漏洩に配慮されている。	A	関係部署間の綿密な連絡やコミュニケーションをさらに強化する必要がある
	4 協働的な人間関係を築き、自他の生命と尊厳を守り、いじめのない人権感覚あふれる学校づくりを目指す。	学校全体や各学年ごとの講演会や学習、体験の機会を通じて、人権や命についての意識の喚起と思考の深化を重ねていくことができた。	A	人権や命に関わる意識や思考を自己や他者との日常生活や取り組みにどう生かし実践していくかを継続的につなげていきたい。
中長期的目標	I 自律的な生活習慣の確立を図る。	遅刻指導、服装、携帯電話の使用自主規制の話し合いなど自主自律的な考え方が根付いてきている	A	詳細な規則のない自律的な責任の重さを考えさせる指導工夫も必要か
	II 学習支援の環境を整備する。	「総合的な探究の時間」にむけて、職員研修を行い、問題意識を共有して準備を進めることができた。	A	「総合的な探究の時間」を基軸として、より主体的で対話的な、深い学びが実践できるようにしていきたい。
	III 生徒の能力の伸長と学力の向上を図り、希望進路の実現に向けた指導をする。	入試制度の多様化に対応すべく、大学での講義や就労体験など早めから取り組むことができ、志望理由の明確化が計れた。	A	質の高い刺激が与えられる企画をし、学ぶ意欲を高め、興味関心の幅を広げ、生徒主体でアカデミックな学び舎を目指す。
	IV 全教職員の連携がより円滑に機能するような学校運営を行う。	目的や、現状について認識を共有し綿密な連絡をとり各部署が有機的に機能しつつある	A	関係部署間の綿密な連絡やコミュニケーションをさらに強化する必要がある
今年度の重点目標	i 生徒の学習意欲向上と学習習慣定着のため、日々の授業の改善と充実にも努める。	自習室のあり方について検討を行った。また、ICTの利活用など、多面的な授業の工夫が行われた。	A	主体的な学習や創造的な思考力を身に付けるために、教員が協同して授業研究をしていく必要がある。
	ii 生徒会の委員会、部活動を通して、生徒の自律を促し活気ある学校づくりに努める。	スマホに関する討論を進める、学校内の環境美化を進める等を生徒が主体となって確実に実行することができた。	A	スマホに関する討議や環境美化の活動をこれからも継続し、今後更に活発にしていきたい。
	iii 教育課程の更なる充実を目指し研究と改善に努める。	難産だった現教育課程も確実に機能している職員生徒保護者の評価も高いものがある	A	新学習指導要領に基づく新たな教育課程の編成に着手すべき
	iv 生徒の学力向上のために、学校内各分掌及び様々な教育機関との連携を進める。	大学との連携、予備校との連携で進学ノウハウを取り入れ効果成果を得ている	A	進路支援・学習支援、のみならず授業内容の精選工夫など生徒の興味を引き出すような工夫、研修、研究に努力する
	v 保護者及び地域にむけて情報発信するとともに、さらに理解・信頼される学校づくりをする。	PTA研修会、学年・学級・個別懇談などを通して保護者の信頼を得ている	A	オクレンジャー、ホームページ、各種会報、を通じて情報提供に努める
	vi 学校生活全般をとおして、お互いの存在を尊重しあえる生徒を育て、職員自身も人権感覚をより高める。	生徒が互いに尊重しあう気風は十分に根底に流れている	A	研修などを通じて職員の人権感覚を更に補強すべき

平成29年度 須坂高等学校 学校評価表（部署別）

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	1 生徒の進路希望に、より対応した教育課程になるよう研究をすすめる。	・生徒の進路希望を実現できる科目配置ができたか。	・教育課程見直しの中で適切な科目配置に関わる議論を深めることができた。 ・私立大学を希望する生徒に向けての科目配置については、さらなる議論と検討が必要である。	A	・私立大学を希望する生徒に向けての科目配置については、さらなる議論と検討が必要である。
		2 大学入試改革と新学習指導要領を見すえ、授業時間や科目の配置について検討を進める。	・平成27・28年度入学生用の教育課程を点検し問題点が改善されたか。 ・平成30年度入学生用の教育課程編成にあたって、大学入試改革と新学習指導要領を意識しておこなうことができたか。	・授業時間と教育課程の抜本的見直しをおこない、「量より質」という観点に立った新しいものを作ることができた。 ・平成30年度入学生用の教育課程編成では総合的な学習の時間の配置について、探究的な学びを意識した工夫を加えることができた。 ・新学習指導要領を見据えた教育課程編成には次年度から本格的に取り組んでいく必要がある。	A	・新学習指導要領を見据えた教育課程編成には次年度から本格的に取り組んでいく必要がある。
		3 「主体的・協働的・深い学び」のあり方について、教育課程の面から検討していく。	・教職員の意識を喚起していくことができたか。	・教育課程の見直しの中で「主体的・対話的・深い学び」への意識喚起が進んだ。	A	
教育活動	学習支援	1 継続的計画的な学習習慣の確立を図る。	・年度当初に配付できるように『学習の手引き』を作成し、生徒に説明することができたか。 ・学習合宿やオリエンテーション等とおして家庭学習の習慣を確立させる指導ができたか。	・『学習の手引き』を予定通り、年度当初に生徒に配布できた。また書式を見直し、全教科統一の書式で生徒の利用に資するものとなるようにした。 ・「生徒アンケート」の数値を見ても、家庭学習習慣の確立が十分なされているとはいえない。今後、習慣づけがなされるための方策の検討が必要となる。	A	・書式の変更を受け、生徒や教員に利用しやすいものとなったか検証する必要がある。 ・家庭学習の習慣作りに向けて取り組まなければならない。
		2 放課後や土曜日の自主学習支援の充実を図る。	・自主学習を支援するための学習環境の整備ができたか。	・自習室での学習を午後7時まで保障することで、生徒の自主学習を支援するための環境を整備できた。 ・土曜講座後に自習室を開放するなど土曜日の自主学習も支援することができた。	A	・自宅学習時間の確保の観点から、自習室と自習室当番のあり方について検討が必要。 ・自習室を利用する生徒を増やしていく方策の検討が必要である。
		3 教科指導力の向上を図る。	・公開授業や授業研究会を有効に活用することができたか。 ・主体的、対話的に学ぶ授業の工夫をうながすことができたか。 ・授業アンケート、生活実態調査の結果を踏まえ授業の向上へつなげる材料を提供できたか。また、生徒自らの学習への取り組み方を見直す契機とすることができたか。	・公開授業に合わせて、教員間の授業公開を呼びかけた。 ・「自ら学ぶ力を培う学校創り」を掲げて、課題・マンダートの見直し、信州学・小論文システムの構築等を行うことができた。 ・「生徒アンケート」の質問項目を検討し、生徒の学習実態が把握できるようにした。	A	・教員間で普段から授業を公開しあい、自身の授業改善に活かしていく取組を今後も検討していきたい。 ・主体的な取り組みや創造的な思考力を身につけるための授業改善をさらに進めていく必要がある。 ・授業アンケートの検証をしっかりとおこない、生徒にフィードバックする方法を検討していきたい。
教育活動	進路支援	1 国公立大学を中心とする生徒の希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。	・センター試験(5-7型、900点)に多くの生徒が参加したか。 ・希望進路実現に向けての指導は適切であったか。	・センター試験出願率は97.9%で例年並みの出願率の高さであり、また多くの生徒が希望している国公立大学受験の基本となる5-7(900点)出願率は80.2%であった。この数字は例年より低い数字ではあるが、生徒一人ひとりの進路希望に合わせた進路支援の結果と思われる。	A	・来年度から年間行事予定表に組み込まれる面談週間を有効活用し、今後も生徒一人ひとりの進路希望実現に向けてさらにきめ細かな支援をしていきたい。 ・次年度以降も今年度のようにセンター試験出願段階において、生徒がセンター試験で力を出し切れる見通しが持てる指導を徹底していきたい。 ・新しい入試をみすえ、推薦入試への取り組みや私大希望者への支援充実について検討をしていきたい。
		2 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)に関する情報収集と職員・生徒・保護者への情報提供および校内の支援体制の構築を図る。	・情報収集・情報提供は適切であったか。 ・適切な支援体制を作ることができたか。	・7月25日に「大学入学共通テスト」(「共通テスト」)に関する職員研修会を実施し、大学入試改革の進捗状況について職員で情報の共有をはかることができた。 ・1月17日の職員会で「Japan e-Portfolio」説明会の報告をうけ情報の共有をはかった。	A	・平成30年度高校入学生から実施される共通テストの試行が本校でも実施された経験を生かしていきたい。 ・現高校2年生から活用がスタートするeポートフォリオについて、校務分掌に位置づけて、県内の高校との情報交換をしつつ研究をすすめていきたい。
		3 進路係より発行する冊子『進路選択の手引き』『合格体験記』等を有効活用する。	・HRや教科での活用が進んだか。 ・学習記録や計画作成のために有効に活用できたか。	・冊子に関しHRを中心に有効活用できている。特に3学年の生徒は先輩方の合格体験談を自分の受験勉強などの参考としている。 ・テスト前を中心に自宅学習記録を活用することはもう一歩である。	B	・次年度も充実した冊子を作成し、学年に添った各冊子の具体的な活用方法を提示していきたい。また今後も『合格体験記』を通じ学習意欲を高めていきたい。 ・『進路選択の手引き』については、新しい入試にむけて内容および活用法の検討を加えつつ、進路実現のためにより主体的に学習計画が立案できるようにしていきたい。

進路支援	4 中学校・大学との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校との連携を深めることができたか。 ・大学見学や模擬講義を通じて大学との連携を深めることができたか。 ・信州大学工学部との連携講座を充実したものにすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会では本校の進路方針・学習の状況が出席者に伝えることができた。 ・夏期の大学見学、秋期の模擬講義とも2年生全員が参加し、それぞれの進路について考えるよい機会となった。 ・8月8日(夏期休業中)の信州大学工学部との連携講座については、今年以上に参加者を増やせるよう工夫したい。 ・2月1日には1学年を中心に連携講座が実施され、今後の進路を考えていくうえで、貴重な機会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度から中学校と同じ50分授業になることや共通テストやポートフォリオなど学校説明会に出席者に伝えていきたい。 ・共通テストやポートフォリオをみえながら、夢ナビライブの成果を検討し、次年度も学年・進路を中心に大学関連の進路行事を検討し充実させていきたい。 ・信州大学工学部との連携講座については、開催時期や日程について検討をすすめ、新しい入試をみえながら、今後のあり方について検討しさらに充実させていきたい。 	
	5 検討会・研修会の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・模試検討会、3年進路検討会や進路研修会を通して職員の共通理解が進み、生徒への指導に生かされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月13日に小論文・志望理由書指導に関する研修会を実施し、本校卒業生が実際に書いた志望理由書の比較検討等を通して、職員の指導力向上に資することができた。さらに7月25日に共通テストに関する研修会を実施した。 ・スタディサポート検討会を各学年で実施し、生徒の実態把握と今後の指導計画に役立てている。 ・3年進路検討会や出願検討会を開くことにより、個々の生徒の進路希望実現に向けて職員間での意識の統一をはかることができた。今年度の出願検討会では全員パソコンを持参し出願指導の効率化をはかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様に職員研修会・各学年スタディサポート検討会を計画していくとともに、模試結果の分析を深めていきたい。 ・スタディサポート活用法については、より実のあるものとするために検討をすすめ、学級担任対象の研修会を計画している。 ・生徒の志望をふまえて、来年度も今年度同様に進路検討会や出願検討会を計画している。 	
	6 大学見学会等への参加を指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒が大学見学会等に参加したか。 ・生徒が大学の情報を得たか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年全員対象の夢ナビライブを7月22日に企画し、参加した生徒にとって志望校や志望学部について知識を得るよい機会となった。クラブ活動等の理由で夢ナビに参加できなかった生徒に対しては、希望者を募りバスを立立てて大学見学を実施した。夢ナビライブ参加を通してオープンキャンパスへの参加意欲が高まる生徒が見られた。 ・大学情報については、大学見学だけではなく、係や担任を中心に参加した各種検討会などの情報を元に学校側から情報提供を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も学年の実情・実態に合わせた夢ナビライブ・大学見学会等への参加の仕方を模索していきたい。 ・各種検討会や本校訪問の大学等から得た有益な情報は、次年度も各学年が発行している進路通信や学年集会等を通じて生徒に確実に伝達していきたい。 	
	7 学習意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習オリエンテーション、学習合宿等において、学習に主体的に取り組む姿勢を喚起することできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年学習オリエンテーションの期間・内容については実施学年の反省を生かして次学年が改善している。 ・1学年の学習合宿では、予備校関係者を講師にむかえ進路講話を実施し、生徒の学習意欲の向上につながった。今後は新しい入試にむけて開催時期や内容に関して検討を重ねたい。 ・各学年の進路通信や集会等を通じて、学習意識の向上をはかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年4月の学習オリエンテーションと授業とのバランスを考えると、入学直後の勉学へのモチベーションを維持し高めていくために、学習合宿の内容や実施時期等を検討し、さらにものししていきたい。 ・次年度も引き続き、各学年で進路通信を発行し、適正な時期に進路講話等を行い学習意欲の向上を図りたい。 	
	8 土曜講座・夏期講座・学習合宿・特編授業等の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が熱心に参加できたか。 ・各学年とも生徒の志望や関心に応える内容であったか。 ・指導の時期は適切であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期講座は参加率が高く、多くの生徒が熱心に参加できていた。また、理科の講座を夏期休業中に開設し多くの生徒が参加していた。 ・土曜講座はクラブ活動と重なることが多く、全員参加が難しい。 ・1学年の学習合宿では、新たに国際交流を取り入れるなど充実した内容の合宿であったが、開催時期や内容に関しては精査したい。 ・3年生の特編授業については、進路実現にむけて例年のように一定の成果をあげているが、新しい入試にむけて、その内容と時期に関して検討を要する。 ・今年度も夏休み以後、学校開放を土曜日のみとし日曜日は完全に自宅学習とさせた。何かと学校への依存心が高かった本校生徒に対して自立心を期待してのことであった。みんなて頑張る「チーム須坂」の精神は今年度も見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科学年にも学力養成・受験力向上などの講座がいろいろ充実できるよう依頼したい。 ・センター試験や個別入試に向けて、特編授業をより充実させたい。 ・校内での自習環境をよりよいものにしていくよう検討していきたい。 	
	9 進路指導用教材を有効に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライト授業が計画的かつ効果的に活用されたか。 ・進路指導書籍は有効に活用されたか。 				
	10 キャリア教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・『四阿おろし』の活用やキャリアデー、大学・企業見学を通じ、職業観の向上が図れたか。 ・職業体験により多くの生徒が参加したか。 				
	生徒支援	1 自律的な生活習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立させることができたか。 ・情報モラルに関する意識を高めることができたか。 ・私物や貴重品の管理を徹底させることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全街頭指導(5月9・10・11日、10月11・12・13日)、自転車安全講習会(1学年 自動車学校)等を行い、交通安全の注意喚起をした。自転車交通事故は7件の報告があったが、主に自動車との接触事故で不注意による事故が多い。 ○運刻指導(5月22・23・24日、10月25・26・27日)を生徒昇降口で行った。 ○貴重品や私物の管理について訴えた。生徒からの盗難被害は減少したが管理が不十分で紛失する生徒が多い。 ○インターネット安全講話(1年)、人権講話(全校)などを行い、生活指導通信などで情報モラルについて注意を呼びかけた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全について、不注意による自転車交通事故が多いことを意識させたい。 ○貴重品・私物の管理については、注意が浸透してきているが、昇降口の私物や駐輪場の自転車の施錠についても、HRを通じてよびかける。 ○ネット関連の苦情等は無かったが、公開されていない範囲での問題について考えなければならぬ。
		2 集団生活の中での人間関係の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」などがなく、生徒が安心して学校生活を送れるような体制作りができたか。 ・精神的に支援を必要とする生徒に対して、個々の状況に応じて支援することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーを配置し、特別な事情のある生徒の精神的な支援に配慮できる体勢を整えられた。 ○いじめ不登校等対策委員会と連携を図った。 ○不登校傾向を持つ生徒は一定数存在する。 ○いじめ、ネット上の誹謗中傷などの報告は無かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーターを中心とした「特別な事情のある生徒」への対応において、個人情報に配慮した上で「職員間の情報の共有」を、さらに改善し図っていく。 ○引き続き、いじめにつながっていくような事案に対しても慎重に対応していく。
		3 職員間で情報を共有し、関係機関や保護者との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・校外での情報交換を本校の生徒支援に生かすことができたか。 ・関係機関や保護者との連携を密にした支援体制を作ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校・各団体と協力することができた。 ○入学式やPTA総会等で本校の指導方針を保護者に伝えた。 ○「生活指導通信」を発行し、必要な情報を生徒や保護者に伝え注意を促した。 ○外部からの苦情等については、可能な限り速やかに対応し、生徒にも注意喚起した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の活動を継続する。「生活指導便り」のみならず、学校の各部署から発行される様々な通信類も含めて、生徒の手から保護者まで確実に届けるために、学校全体の体制について検討していく。
4 生徒会との連携を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、校風委員会等と連携して、上記目標1～3などの実現を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度、須坂警察より自転車安全モデル校として委嘱され、校風委員会を中心とした生徒会と協力し、年間10回の須坂駅前駐輪場の整備点検を行った。 ○校風委員会によるステッカー・施錠調査をきっかけに、生徒からも数回クラスで呼びかけ、無施錠は減少した。 ○自転車盗難被害は、報告のあったもの(3件)以外にも発生していると思われる。外部から放置自転車の連絡は3件だったが、盗難被害に 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会との連携を深め「自転車も含めた交通マナーの向上」をさらに呼びかけていきたい。 	

教育活動	人権平和	1 基本的人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。	・人権や平和の問題について積極的に考え、行動する力を伸張する機会や場を設けることができたか。	・10月5日にNTTドコモの佐藤さんを講師に迎え、ネットの危険性やモラルについてお話を頂き、あらためて日常での使い方を確認することができた。ネットに関して扱うことが多かったが、講演を含めさらに指導を図ることが必要である。	B	・様々な人権問題の存在を知り、意識を高める必要がある。
		2 自主的・民主的な集団づくり、協働的な仲間づくり、いじめや差別をなくす関係づくりを図る。	・ホームルーム、生徒会活動、クラブ活動などを通じて、集団や仲間について学ぶ機会や体験する場を設けることができたか。	・クラスマッチや学習合宿、大学・企業見学、生徒会活動・クラブ活動を通して、自主的・民主的な集団作りを実践した。 ・文化祭の長期間にわたる準備および当日の活動を通して、クラス・学年を超えた仲間作りをし、自主的・協力的な時間を体験できた。	A	日常の活動において、生徒一人ひとりが自ら積極的に取り組めるように、努めていきたい。
教育活動	生徒会	1 お互いの意見や立場を尊重し合いながら計画を立案し、その計画の実現を目指すよう支援をする。	・共有している反省を活かした計画が立てられたか。 ・個々の意見を尊重できた話し合いが十分なされたか。	・昨年の反省を元に、話し合われたことを計画、実行する機会が多く作れた。さらに討議を深めさせたい。	A	・執行会などをさらに充実させたものにしていけるよう支援していきたい。
		2 生徒会執行部、各委員会、さらには各部活動が連携し、活動ができるよう生徒間の協働性を向上させる。	・連携を深めるための活動の場が十分に作られたか。 ・生徒会活動を通じて生徒間の協働意識が深められたか。	・執行部と各委員会、代議員会が連携して行った活動が増えた。連携の度合いをさらに深めたものを実行させたい。	A	・部活動との連携をさらに良いものにするよう支援する。
		3 地域社会の活動に、生徒が自主的に取り組み、その成果を発信できるような環境を作る。	・須坂市からの要請事業に自主的に協力ができたか。 ・自らの活動を地域に向けて発信できたか。	・地域のことを考える活動が増加した。自主性および成果の発信は課題である。	B	・HPの生徒会部分の充実などを意識させる。
教育活動	図書・視聴覚	1. 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	・図書館利用が増えたか。	・図書の貸出数は例年とさほど変わらなかった。 ・1年生の授業での利用があり、図書館に足を運ぶ機会となった。	B	・多読の生徒のみならず、より多くの生徒が本を読みたくなる工夫を、今後も考えたい。
		2. 教科・授業、小論文に関する資料の充実を図る。	・利用者の要望に応じることができた資料の充実が図れたか。	・3年生が求める面接・小論文関連の本は揃っており、求められる資料は提供できた。 ・購入アンケートや店頭購入により、需要のある図書を充実させた。	A	・図書購入アンケートを参考にし、今後も需要のある図書を揃えたい。
		3. 快適な環境を整え、更なる施設の利用促進を図る。	・自主学习などにも、多くの生徒が利用したか。	・自主学习で使用する生徒のための図書館環境は一定程度整えられており、3年生を中心とした利用があった。	B	・秋口から冬場は館内が冷え込むため、暖房設備の充実が望ましい。 ・閲覧室内で授業や生徒の自主的な活動に使用できる、プリンタの更新が必要である。
		4. 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	・利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	・プロジェクタ・タブレットの設置により、授業や課外活動に利用された。	A	・さらなる今後の活用を検討したい。
教育活動	保健	1 心身の健康管理を図る。	1 保健室への来室者への対応が適切であったか。また、関係者や担当部署との連絡・連携ができたか。 2 緊急時、保護者への連絡および医療機関との対応が迅速・適切にできたか。 3 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	・必要に応じて担任や関係職員・SCと連携をとることができた。 ・緊急時は保護者及び医療機関への連絡が迅速にできるように、関係職員と協力して行っている。 ・定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒には、個別指導を行った。	A	・11月より実施した健康観察ファイルは、心身両面からの生徒の状況把握に役立っている。 ・今後も緊急時には、迅速に対応できるように努める。 ・今年度の職員AED講習会には、3年以上未受講の先生の多くにご参加いただいた。今後も3年に一度のご参加をお願いしたい。 ・平成28年度より導入された運動器検診については、よりよい実施方法を模索している。 ・保護者懇談会を利用したことによって事後指導の効果が上がった。
		2 環境の管理を図る。	1 学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かしたか。 2 校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認改善	・学校環境検査は計画通り実施している。 ・安全衛生委員会と連携して確認した。	B	・継続した取り組みを行っていききたい。 ・特に緊急性が必要な施設・箇所は優先的に予算措置をお願いしていく。
		3 保健指導を充実させる。	1 自身の健康課題に対して、興味関心をもてるような広報活動ができたか。 ・保健委員会等による広報活動 ・保健委員会の活動支援	・保健日より、保健関係の掲示物で広報活動を行っている。 ・昼休みの放送にて感染症予防の呼びかけを行った。	A	・継続して広報活動を行い保健指導の一層の充実を促す。
教育活動	環境美化	校舎内外の環境美化を図る。	清掃が日常的にきちんと行われ、トイレを含む校舎内外がきれいにそして清潔に保たれているかの確認	・環境美化委員会と連携して校舎内外の美化に取り組んだ。 ・外掃除を月例大掃除と切り離して毎月2回実施する形に改善した。	B	・環境美化委員による清掃状況の確認作業を徹底させたい。

教育活動	PTA	1 PTA活動を通し、学校と保護者及び保護者間の情報交換と親睦が深められるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> PTAの諸会合の案内が会員に周知できたか。 PTA総会や学年・学級PTAに多くの保護者が参加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会・学年PTAへの保護者の参加率は過去3年間で、最も高い割合となった。(PTA総会30.2%昨年比+3.2%・学年PTA55.3%昨年比+5.1%)学級PTAについては昨年度よりも減ってしまった。(46.2% 昨年比-5.3%) 生徒を通じて保護者への通知文書配付の他、オクレンジャーも活用することで、周知できたと考える。 総会終了時間を20分ほど超えてしまったため、学年・学級PTAの進行に支障が生じてしまった。 全職員と一部生徒の協力により開催することができた。特に教務係との連携によって、仕事内容の重複を避けることができ、業務の効率化が図れた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 雨天の場合のグラウンドに代わる保護者用駐車場の確保については、毎年頭を悩ますところであるが、関係機関への代替駐車場借用依頼は秋の研究会も含め、来年度早々に行いたい。 時間に余裕をもった計画を立てたい。
		2 PTA研修会が保護者にとって本校生徒の生活や進路指導についての理解と研究を深める機会となるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> PTA研修会の案内が会員に周知できたか。 PTA研修会に多くの保護者が参加したか。 PTA研修会の満足度は高かったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 周知については、1と同様である。 保護者の参加率も1と同様に増加している。(53.3%昨年比+7.2%) 満足度は低くないと考えるが、具体的な数値として分かるような工夫をしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は全体研修会を実施するが(隔年)、参加率が更に高まるような魅力的な講師を招聘したい。 「保護者による学校評価アンケート」にPTA活動に関する項目を加えることの検討を提案したい。
学校運営	教務	1 学校が円滑に運営されるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> 校内の諸行事が適切に計画・運営されたか。また、生徒・教職員・保護者に対して周知徹底が図られたか。 月曆の発行やホームルームを通じた周知、日課に応じたチャイムの設定などにより、生徒・教職員の学校生活が円滑に進むよう努めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸行事については、特に問題はなく円滑に運営することができた。 日課の周知やチャイムに関しては、大きな問題はなかったが、一部に連絡の遅れやミスもあったので、より精度高く行ってきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 係・学年等の各部署と、密な連絡を取り合い、より円滑な運営を心がける。 係内でのチェック体制を強化し、ミスを防ぐ。
		2 校内の情報を外部に発信すると共に、個人情報の漏洩に注意を払い、本校への一層の理解を深めてもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業、体験授業、学校説明会について適切なPRを行い、多くの中学生・保護者の参加が募れたか。 ホームページやパンフレットなどによって、本校の活動を外部に向けて広く紹介できたか。また、時期に応じた適切な情報をホームページに掲載できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学には中学生324名、保護者78名と昨年とほぼ同数の参加を得た。公開授業の参加者は、5月10日合わせて395名と、昨年より60名ほど増加した。 体験入学の実施時期については、より中学生が参加しやすい時期を検討したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学については、中体連の大会と重ならない7月後半の実施を検討したい。
学校運営	教務(情報処理)	1 情報処理機器及びネットワーク利用による校務の合理化の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新校内LANの整備に合わせて、使いやすいフォルダ構成と情報の整理を進めることができたか。 アプリケーションソフトや機器の導入・更新を進め、ネットワークの維持管理を適切に行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌へのアクセスは概ねわかりやすい。 サーバーの容量には制限があるので、古くなったデータや重複データなどを定期的にチェックしていないと、空き容量が不足してしまう。 スクールアグリーメントを導入し、ライセンス管理を適切に行えるようにした。また、プリンタ等機器の更新を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 古くなったデータや重複データなどを定期的に別のメディア(DVD、HDD)に移して精選していく。 ライセンスおよびネットワーク機器の更新を継続していく
		2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業や各種講演会、研究授業等でネットワークおよび情報機器を活用できたか。 学校ホームページについて、各係から依頼された話題を迅速にHPにアップすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報科授業で進めている。 整備された教室内プロジェクタ、タブレットPCを使つての授業が増えた。 各分掌から依頼のあったものは、できるだけ迅速にHPにアップするように心がけた。 日ごろの校内のようすがわかるように、行事等のようすが掲載した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> より多くの場面で活用できるように、機器の貸し出しを工夫していく。 従来よりも見やすくなったが、細部の情報・記事の更新を進める必要がある。
		3 情報の管理という面で個人情報や著作権に関して職員や生徒へ周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報や著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員と生徒に伝えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、または必要に応じて周知を図った。情報科の授業で扱った。 管理区分に沿った情報資産の管理について伝達した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティの確保と利便性の向上を両立させるように、運用方法を検討していく。
学校運営	教務(防災)	1 緊急体制を整備・確立する	<ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡用としてオクレンジャーの有効な活用ができたか。 避難経路が周知されたか。 避難訓練が有効に行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね良好に行えた。 今年度生じた新たな状況として、アラートによる緊急信号があったが、学校としての具体的な対応には苦慮する。 	A	
		2 近年の災害の頻発に鑑み、防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 防災についての意識を高めることができたか。 使用規定に従い、安全なストーブ使用ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ストーブの消し忘れが何件もあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の下校時間の徹底、事務室の制御盤の活用。